

1 学校教育目標	
人権尊重の精神を基調とし、主体的に学び、広い視野と深い知識を身に付け、思いやりの心と郷土愛により社会に貢献し、規範意識をもち、心身ともに健康で、たくましく生き抜く、次代を担う生徒の育成を目指す。 教育指針 「学ぶ 鍛える 思いやる」	
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像	
○学校像	生徒の学ぶ意欲の伸長、学力の向上、社会性の育成を図ることができる学校 地域・保護者に信頼され、力を合わせて生徒を育成する学校 組織で課題解決にあたる学校
○児童・生徒像	向上心をもって粘り強く努力し続ける生徒 他を思いやる豊かな心をもつ生徒 「あじみこし」が身に付いた社会性のある生徒
○教師像	生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと創意・工夫する教師 謙虚に自己研鑽に励み、指導力を発揮する教師 組織の一員として教育活動に取り組む教師
3 学校の現状及び前年度の成果と課題	
<p>1 学校の現状</p> <p>(1) 全校で放課後補充教室に取り組み、リトルティーチャーやAIドリルも活用し、基礎学力の定着に努めている。</p> <p>(2) 自作作成の家庭学習ノートを活用して家庭学習に取り組む習慣を身に付けることができた。</p> <p>(3) 学校行事や生徒会活動・委員会活動等には積極的に取り組み、達成感も高い。</p> <p>(4) 地域行事をとおして、地域の町会や自治会・小学校・高校との連携が定着している。</p> <p>2 前年度の成果</p> <p>(1) 全校体制での放課後補充教室の実施により、基礎学力の定着につながった。リトルティーチャーやAIドリルを活用した。</p> <p>(2) 家庭学習ノートの継続によって、家庭学習の習慣がある程度定着した。</p> <p>(3) 小学校の職員入れ替わりが多数あったが、小中連携の中で関係が構築できた。</p> <p>(4) 2町会・2自治会のお祭りやチャイルドタウンフェスティバル、子どものハッピーイベント等にボランティア生徒を募り、少数ではあったが、関わる事ができた。地域の方よりあいさつを褒めていただいた。</p> <p>3 前年度の課題</p> <p>(1) 授業で振り返りを行うことは定着しているが、振り返りの内容項目や効果について課題が残る。</p> <p>(2) 家庭学習ノートについては、授業との関連づけを意識し、基礎学力の定着と筆記による出力の確認として活用していく。</p> <p>(3) 放課後補充教室については、リトルティーチャー制を更に発展させ、学び合いの時間を増やし、人に教えることで自己有用感や学力の定着を強固なものとする。学び合いのルールについても校内で統一し、全学年のものとする。</p> <p>(4) キャリア教育の目的意識を明確にし、生徒一人ひとりの夢や理想をはっきりさせる手助けを行い、夢や理想につながる目標をもって学習に取り組ませる。苦手でも目標のためにやりきる楽しさや充実感や達成感を得られることを体験させる。ストレスからの回避やメンタルトレーニングの方法について、スクールカウンセラーや養護教諭とともに指導していく。</p> <p>(5) あいさつは地域の方からよい評価をいただいた。わきまえた礼儀作法等をさらに指導する。</p> <p>(6) 地域や家庭、関係教育機関との円滑な連携により、健全育成をさらに推進する。</p>	

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R5	R6	R7	R8	R9
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践	◎	◎	◎	◎	◎
3	生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進	○	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
全教科において足立スタンダードに基づいた活用型授業を展開することで、主体的に学び、深く考え、表現することができる。	R7区学力調査達成率65% 到達度確認テスト(1月) 正答率65%	達成率が70.4%となり、目標に対し、+5.4ポイントとなった。 平均正答率が全体3科平均67.4%だった。 到達度確認テストは正答率61.1%だった。	授業での足立スタンダードや全員参加型の放課後補充教室が定着しつつある。区学力調査の目標値は超えたものの、昨年度より達成率が0.7ポイント下がった。更なる授業改善や放課後補充教室と家庭学習ノートの連携を意識し、基礎学力の定着を徹底する。	○

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	授業改善	全教科	年間	①管理職による授業観察 ②小中連携による教科ごとの研究授業 1回 ③江北ブロック合同研修会 1回 ④区中研教科部会への参加 ⑤学力定着推進員と管理職による授業観察 国語、数学、英語科教員 ・教科指導専門員による指導	①自己申告面談にて授業の講評を行う ②教科ごとに成果発表 ③自教科の授業を参観し、協議会に参加する ④教科部会で得た情報を基に授業の改善を行う ⑤授業観察後の協議会 専門員との振り返り	①全教員年2回 ②全教員年1回 ③全教員参加 ④全教科部会参加 ⑤対象教員年1回 教科ごとに決められた回数	・①～⑤について概ね実施した。 ・②小中連携で昨年度大仙に派遣された小中の教員2名を招聘し、年度初めに研修会を実施した。 ・発達障がいを抱えた生徒の支援や具体的な方法について計野先生から学ぶことができた。	・生徒の授業に向かう姿勢が良好である事と、教師の授業にかける熱意が相乗効果となり日々の授業が展開されている。その成果が結果に結びついた。 ・教科指導専門員と育成方向の確認をする。 ・大仙の指導法を直ぐに活かそうとする動きがあった。	○

継続	朝読書	全生徒 国語	毎日 朝 10 分	国語科及び担任 ・毎朝 10 分間読書に取り組みませる。 ・語彙を増やすための読書記録	読書冊数	1 人 10 冊以上 語彙力を高める	4～6/14 年度末 R5 5.2 14.2 R6 4.4 14.8 R7 5.8 (単位：冊)	・朝読書の時間をしっかりと分けて 10 分間とる習慣が確立した。 ・語彙を増やす目的で読書記録をつける 全学年徹底 ・読む力強化したい	◎
継続	放課後 補充教室	全生徒 英・数中心 に 5 教科	毎日 放課後 25 分	全教員 ・リトルティーチャー制の導入 ・AI ドリルの活用	到達度確認 テスト(1月)	正答率 65%	到達度テストを 1 月 27 日に実施予定 正答率 61.1%	・令和 5 年度より放課後補習教室の時間 25 分は全校生徒を対象とし、全教員がついて実施する形にした。教室ごとに分けて内容を変えて少人数で行った。年度初めにリトルティーチャー制を考慮したグループ分けを行い、学び合いの形も充実させた。 ・家庭学習ノートも継続する。	◎
継続	スモール ステップ テスト	全生徒	年間 単元終了 時	5 教科担当 家庭学習とも関連付け 復習プリント等を与え テストに取り組みませる。	スモールステ ップテスト	単元終了時に 5 教科で実施	・教科で計画を立て、 予定を生徒に伝え実 施できている。	・基礎学力の定着や 定期テストに向けて の学習の指針になっ た。	○

継続	コンテスト	全生徒	年3回	全教員 ・国語7月 英語12月 数学1月	プレテストを実施してから コンテスト	合格点80点とし 合格率80%以上	合格率81.4% 国語 82.0% 英語 80.7% 数学 81.5% 実施予定	・コンテストに向けたプレテストの実施や練習用プリントの廊下設置、不合格者の補充や再テスト、合格者更に満点の表彰を行い、学習に対する充実感を継続して味あわせる。	○
継続	家庭学習	全生徒	毎日 強化週間 定期考査 前4回	家庭学習ノートを自校作成 担任が毎日点検 1, 2, 3年2ページ	提出状況 ノートの内容	提出状況100%	強化週間の3回までは、配慮が必要な生徒以外は100%提出。 第4回は2月予定	・家庭学習ノートの継続か否か教員間で毎年議論して継続している。 ・家庭学習ノートが無ければ家庭学習が0になる可能性が大きい。	◎
継続・新規	ICTの活用	全教員 全生徒	年間随時	大型モニター・Chromebook等を活用した授業を実施する。 AIドリルの活用	全教科 随時活用	ICT使用率 100%	・小中連携の大仙派遣教員による研修会の中でICTを活用した振り返りシートの紹介 ・校内研で教務主任よりパドレットの紹介 ・11月10日に工藤指導主事を招きGemini研修会実施	・紹介したICT活用方法を一時的に取り入れるが、長続きしない。 ・ICTとそれ以外の有効な組み合わせを考える。	○

重点的な取組事項－2		小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携事業とともに、地域行事に積極的に参加し、郷土愛の心を育成する。		小中連携事業をとおして、円滑な接続を図る。 地域行事への参加率を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら考え、みんなで取り組む課題解決学習～学習者主体の学びを目指して～」を主題に研修した。 ・小学校中学年の授業規律の確立に向けて、視察、改善案の提示を行った。 ・PTAに協力を依頼し、全部の地域行事に生徒ボランティアを派遣した。 ・開かれた学校づくり協議会主催で地域祭りの休憩場所として校庭を開放した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まった連携だけでなく、部活動や中1勉強合宿、授業規律の確立などでの連携が進んだ。 ・生徒とPTAで地域行事に参加することで、地域との関係がより深まった。 ・祭りの休憩所として校庭を開放し、多くの地域の方々と生徒の交流の場を設けることができた。 	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域への貢献	「地域の行事に参加している」60%	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動等への参加（消火隊、地域行事、地域清掃、吹奏楽演奏会等） ・生徒会を中心にボランティアを募り、地域清掃を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2町会・2自治会のお祭りやチャイルドタウンフェスティバル、子どものハッピーイベントにPTAと連携し、ボランティア生徒を派遣した。 ・ボランティア生徒を募り、生徒会役員を中心に地域清掃を実施した。 ・地域の行事に参加している：63.2%と昨年度より6.7ポイント上昇した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りと定期考査前の期間が重なることで、ボランティアが集まりにくいこともあった。 ・平日の地域清掃が定着し、ボランティア参加生徒数も増加した。 	◎

交流活動の充実	児童・生徒交流5回以上 新入生2学級確保	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動体験(小6) ・運動会への小学生参加(小6) ・合唱コン練習小学生見学会(小6) ・合同百人一首大会(小5・中1) ・サマースクール アシスタントティーチャー 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の第一希望を優先し、開催時期を夏休み中の2日間にし、時間も長くした形で実施した。 ・運動会では、部活動対抗リレーに小学生チームが参加した。小学校の先生方が引率及び参観に複数来校した。 ・計画した交流は概ね実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動体験は小学校に引率をお願いする形となったが、児童は第一希望の部活動に長い時間参加することができた。 	○
授業以外の学力向上 対策	漢検の合同実施 百人一首合同練習会実施	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定への小学生参加 ・百人一首合同練習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定を小学生が江南中学校で受験した。 ・1月29日に百人一首合同練習会を開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・中1ギャップが少しでもなくなるように小学校教員と連携する。 	○

重点的な取組事項ー3		生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識(愛校心)と自己肯定感をはぐくむ。キャリア教育に関わる取組をとおして、将来や今の自己の生き方について考え・表現できる生徒を育成する。	「学校に行くのが楽しい」75% 「大人になったときの夢や目標がある」70%	「学校に行くのが楽しい」65.4% 「大人になったときの夢や目標がある」58.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」は-6.6ポイントとなり目標値に達することができなかった。 ・「大人になったときの夢や目標がある」-10.7%となった。キャリア教育に重点を置く。 	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情を育む実践	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」65% ・「あじみこしを意識して生活している」80% ・各種表彰並びに掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が主催の「あじみこし」キャンペーンの実施 ・大会等上位入賞者の表彰や掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」62.5% ・「あじみこしを意識して生活している」72.1% ・ほぼ毎回の朝礼時に何らかの表彰を行い、学校だよりや学年だよりにも取り上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」は-6.3ポイントとなった。できたことに対する評価を言葉で伝えていく。 ・生活の目標「あじみこし」は+3.9ポイントとなった。校内の規律は保たれている。 	△
意志決定能力・キャリアプラン能力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問1年、職場体験2年の実施 ・夢デザインシートの活用 ・「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問1年 ・職場体験2年 2日間 ・夢デザインシート記入 ・外部人材の活用 ・上級生から下級生へ ・中学生から小学生へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の職場体験は事業所との間に紹介業者を入れて実施した。教員の受け入れ事業所探しの手間を削減し、例年と同等の体験活動ができた。1年生の職業講話も外部人材より多種多様な話を聞くことができた。 ・「自分の好きな仕事に就けるよう、勉強したい」81.6% ・上級生から下級生にキャリア教育の事後学習の発表を通して、取り組みを継承した。また、小学生に向けて中学校行事（職場体験の発表を含む）への招待や部活動体験を通し、少し先の自分をイメージしてもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験先の確保を紹介業者に任せたことで、事前、事後学習に集中して取り組めた。 ・「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」+0.4ポイントとなった。キャリア教育の充実の成果。 ・与える喜びを実感させることができ、下級生については目上の者を尊敬する意識を培わせた。 	△
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループ活動やペア活動で話し合ったり、発表したりすることは好きだ」70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で言語活動を取り入れた工夫した授業の実施 ・プレゼンテーションソフトを活用した発表の充実 ・生徒会朝礼の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループ活動やペア活動で、話し合ったり、発表したりすることは好きだ」58.1% -12.0ポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科でペア活動や発表の機会があり、生徒たちのスキルは上がっているが、発表の回数も多く、負担に感じている生徒もいる。 	△

生徒会、委員会活動の活性化	・「行事・部活動に積極的に取り組んだ」85%	・生徒実行委員会を中心とした行事の運営や生徒会、委員会の主体的な活動の推進	・「行事・部活動に積極的に取り組んだ」81.6% -0.2ポイント	・目標値には達しなかったが、3年生を中心とした行事の実行委員が、リーダーシップを発揮した。	○
---------------	------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------	---	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学習については、毎朝10分の読書が定着し、落ち着いた雰囲気です。学校生活が始まり、授業改善や全校体制で取り組む放課後補充教室、家庭学習ノートの継続も相まって基礎学力の維持につながったと考えられる。アナログとICTのよいところを融合し、興味をもち、生徒が前向きに授業に臨めるような評価や声掛けを意識した授業改善を目指す。家庭学習ノートについては、基礎学力の定着と筆記による出力の確認とともに、毎日の家庭学習の習慣を中学校卒業後も継続できる力をつけさせる。放課後補充教室については、リトルティーチャー制を定着させる。学び合いの中で、人に教えることで自己有用感や学力の定着を強固なものとする。

キャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの夢や理想をはっきりさせる手助けを行い、夢や理想につながる目標をもって学習に取り組ませる。三者面談の最後に将来の夢や目標について、意図的に取り上げ、話を締めくくることを実践する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解ご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

宮城・小台地域は、小さな乳幼児からご年輩の皆様まで、ひとつの絆でつながっている素晴らしいところです。その貴重な財産である中学生の健全育成と学力向上のために、教職員の総力をあげて尽力してまいりますので、今後ともなお一層のご理解ご支援ご協力をお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

1年2学級・2年2学級・3年2学級の全校6学級で編成の継続。

次年度以降も、小規模校ならではの特長を最大限生かし、複数担任制・指導方法の工夫等、生徒一人一人にきめ細やかな指導並びに支援ができるよう教育活動にあたってまいります。引き続き、ご理解ご支援ご協力をお願いいたします。